

平成26年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	発達障害児の感情コントロール支援のためのタブレット端末用アプリケーションの開発
------	---

研究代表者

氏名 藤野 博	所属 特別支援科学講座	職名 教授
------------	----------------	----------

研究分担者

氏名 森脇 愛子	所属 障がい学生支援室	職名 特命講師

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)

【本研究の目的】

自閉症スペクトラム障害(ASD)をはじめとする発達障害児・者の支援にICTの活用が効果的であることが近年指摘されている。これまで紙印刷物を通して教示されてきた対人コミュニケーションや感情コントロールの教材や支援ツールが、iPad等のタブレットやスマートフォンなど身近にある端末で日常的に使用できるようになることによって、さらなる支援効果が期待されている。そこで本研究では次の2点を目的とした。

- ①「感情モニター支援ツール：きもちメーター」のiPad/iPhone版アプリケーション(以下、アプリ)を作成し、一般公開する。
- ②「きもちメーター」の適用効果について、高機能ASD児の保護者を対象とし、質問紙にて調査を行う。
- ③一般の大学生を対象とし、アプリのユーザビリティについてインタビュー調査を行う。

【成果①：感情モニター支援ツール“きもちメーター”アプリの開発および一般公開】

“きもちメーター”は、感情の状態を色彩のパターン等で視覚的にわかりやすく表示したシートを参照しながら、それと対応づけて自己の感情の状態をモニターし、感情の調整を図る支援ツールである。アプリの基本設計(藤野)およびデザイン構成(森脇)を行い、専門業者にプログラミングを委託して完成させた。2014年12月12日にAppストアにおいて一般公開し(<https://itunes.apple.com/jp/app/id942356691>)、iPad/iPhoneに無料でダウンロードできる。2015年4月8日時点でダウンロード数は1062となっている。

【成果②：自閉症スペクトラム障害児における“きもちメーター”の適用効果】

1)対象と方法：200X年～200X+7年の期間に、藤野・森脇が運営・実践したクリニックベースのコミュニケーションと感情コントロールの支援を目的とするソーシャルスキル指導グループに参加した高機能ASDの児童66名を対象とし、その保護者への質問紙調査を行った。返送のあった15名分を分析対象として、記述内容をカテゴリ化した後、支援ツールとしての適用効果や課題について検討した。なお、調査参加について保護者の同意を得た上で、個人情報に配慮して分析した。

2)結果：“きもちメーター”の適用効果については、従来の印刷物(紙)の教示内容は子ども本人また保護者にとっても記憶しやすいものであるものの、自宅や学校等、指導会での活動を離れたのちに使われることが少なかったことが示された。その点でiPadなどの身近な端末にアプリをダウンロードすることで、日常的に目にする機会が増え、使用頻度が上がるのではないかと推察された。また、使い方の詳細説明や機能面の改善などの要望があり、それらは今後の課題となると考えられた。

【成果③：大学生における“きもちメーター”のユーザビリティ調査】

1)対象と方法：大学生4名(ASD診断有2名、気分障害の診断有1名を含む)に、“きもちメーター”アプリを使用してもらい、ユーザビリティについてインタビュー調査を行った。

2)結果：端末操作の方法を具体的にしてほしい、記録が消えてしまう点を改善してほしい、時間は細かく記録されるがその時に何が合ったか、どのような感情であったかを合わせて記載したいというニーズが挙げられた。また大学生(成人)の場合、気持ちを色で表現するだけでなく、数字(0～5/0～10/0～100の各パターン)や表情などでも表現できるようにするなど、より詳細で個別特性に応じた設定ができることが望まれていることが明らかとなった。

## 研究成果発表方法

[発表論文名（口頭発表を含む）、氏名、学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。]

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。  
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

発達障害児のための情動調整支援アプリケーションの開発（仮題）、  
藤野 博・森脇愛子、東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ（第67集）に投稿予定